

「鬼押し出しの鍾乳石(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「鬼押し出し園」は、世界でも稀な、入場料をとる「溶岩しかない地形」である。遊歩道こそつけられているが、その左右は、見渡す限り溶岩しかない。溶岩だけ見てもおもしろくないので、たまたまできたさまざまな「奇岩」を見つけるのが、入園者の楽しみだ。



これは「座った犬の後ろ姿」に見える。それも何か首に風呂敷のようなものを巻いているようにも見える。溶岩はもともと多孔質で風化しやすい岩石だ。噴火から 240 年も経っているのに、このように複雑な形状を維持していることが素晴らしい。



遠くに見える浅間山の山頂付近まで、溶岩しか見えない。まさに上毛かるたの云う「あさまのいたずら鬼の押し出し」の景観である。ところが、この溶岩ばかりの鬼押し出し園で、私は「鍾乳石」を発見した。



鍾乳石は通常、石灰岩地帯にある鍾乳洞の中で、非常に長い時間をかけて形成される。写真は今は入手困難になった秋吉台産の鍾乳石だ。この大きさになるのにも数万年はかかっているだろう。



これも秋吉台産の太い鍾乳石を「輪切り」にしたものだ。高校の修学旅行の時に、秋芳洞の売店で購入したものだ。年輪のような構造が見られる。



(山梨県青木ヶ原樹海／富士風穴産)

溶岩洞窟にも「溶岩鍾乳」と呼ばれるものが存在する。しかしこれは、溶岩洞窟の内部で、まだ凝固していない溶岩が垂下して固まった、非常に短時間で形成されたものだ。鬼押し出し園には溶岩洞窟はない。さて、どういうことだろうか？